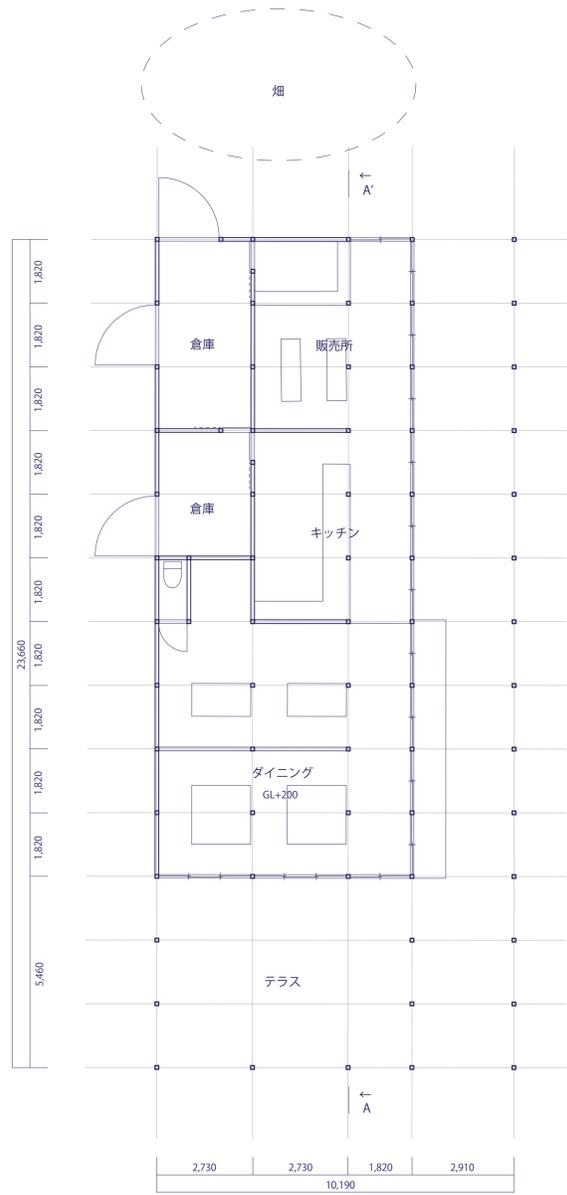


1 こども食堂



平面図 1:100



建築概要
 こども食堂
 ・構造 木造 1階建て (離れ)
 ・床面積 172.24 m²
 ・最高高さ 3,170 m

待機児童・留守家庭児童問題

現在、早島町で問題となっている留守家庭児童問題に着目し、こども食堂を計画する。ここで、留守家庭児童とは、保護者等が労働のため家庭を留守にしていることが常態である児童のことを指す。早島町では、留守家庭児童会に入会した児童は、放課後児童クラブや児童館などで、親の帰りを待つことが出来るが、児童数が増えるのに対し、職員は手薄になったり、入会していない児童がいたり、放課後に居場所がない児童が多数いるのが現状である。そこで、子供達の居場所となりつつ、筋の形成も行うことが出来るようなこども食堂を設計した。小学校からそのままアクセス出来る敷地のため、小学生が来ることを前提として、畑を配置し、小学生に役割を与えることで、放課後にここへ来る理由を作り出す。また、建築群で用いた、水路を引き延ばしたり、土間空間を作ったりする操作を、実践することで視覚的に奥の敷地へと歩かせるようにした。

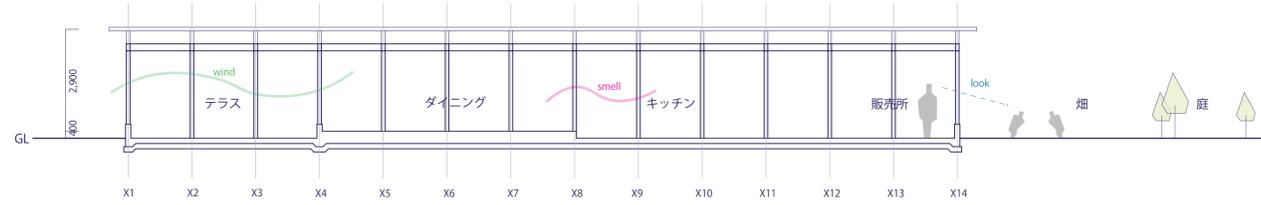
食育

小学生が自分で育てた食物をこども食堂で食材として用いることで、自分で育てたものが、料理になり、それを食べるという一連の流れを体験することで、食育にも繋がる。

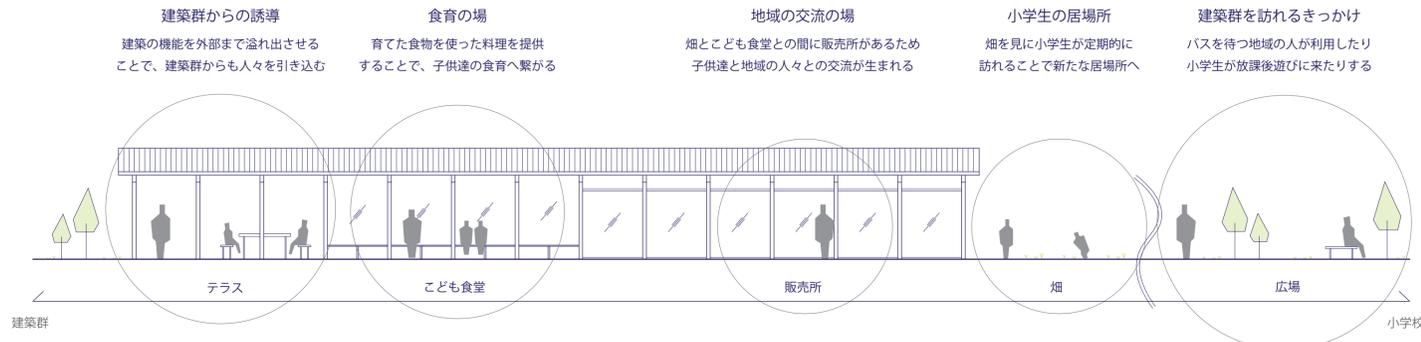


小学生のタイムスケジュールの例

平日	休日
9:00 学校で授業 小学生どうして畑やこども食堂の話が広がっていく	9:00 お家で昼ごはんを食べる
16:00 広場で勉強 放課後そのまま利用する	13:00 家族で畑を訪れる 畑は子供の成長を感じられる
17:00 畑で水やり やがて毎日の日課となる	15:00 広場や庭で遊ぶ カフェや図書室で休憩も
18:00 こども食堂で夜ご飯 地域の人も交えて食事する	17:00 こども食堂で調理体験 月に1回、小学生が調理体験出来る
帰宅	18:00 こども食堂で夜ご飯 家族や地域の人と一緒に食べる 週末は家族と訪れ、食事することでこども食堂が楽しい場所と認識



A-A' 断面図 1:100



東側立面図 1:100



こども食堂横の畑



こども食堂

2 アトリエ



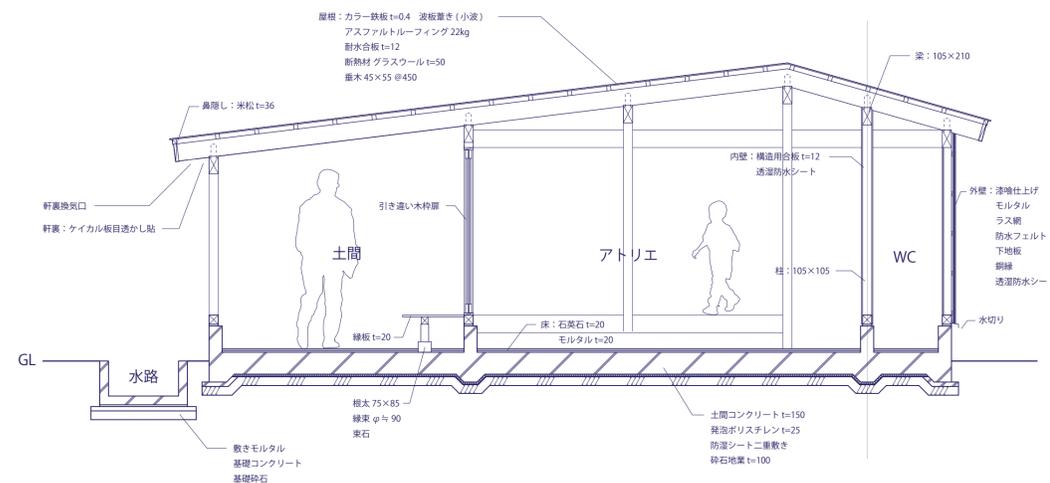
平面図 1:100



建築概要
 アトリエ
 ・構造 木造 1階建て (建築群)
 ・床面積 49.69 m²
 ・最高高さ 3,300 m

建築群の入り口

建築群の初めの施設のため、誰もが気軽に利用できるよう、用途を持ちすぎない空間にした。

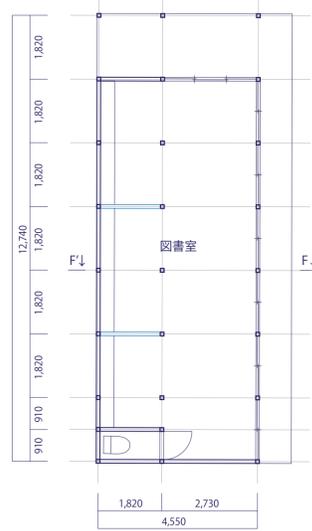


B-B' 断面詳細図 1:40



アトリエ外観

6 図書室



平面図 1:100



建築概要

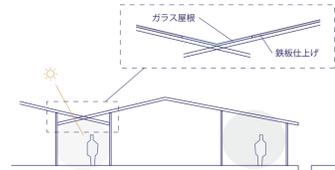
- 図書室
- ・構造 木造 1階建て (建築群)
- ・床面積 49.69 m²
- ・最高高さ 3,040 m

見えない繋がり

図書館とは違い、地域の人々が家から持ってきた本も置いてあるため、訪れるの間に見えない繋がりが生まれる。世代が違う人どうしの交流のきっかけにもなる。

屋根構造 1

分散配置の建築を切り妻の大屋根で覆う構造。左右に分かれている建築群それぞれに屋根を掛け、裏路地側の梁を向かいの建築の柱に落とすことで、建築どうしの間の裏路地にも低い屋根がかかる。さらに、裏路地の屋根の仕上げをガラスにすることで、狭い道でも圧迫感のない空間となる。水路沿いの土間空間にも、屋根がかかっているため、その道との差別化も図る。

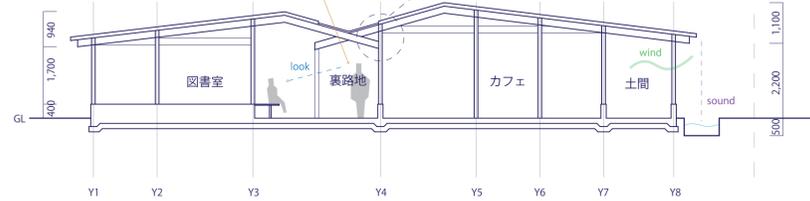
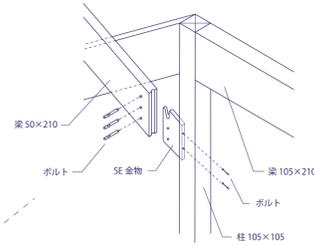


床の仕上げ

図書室の床の仕上げだけ、全面畳にしている。もともと畳工場があった敷地のため、歴史を感じやすく、新しくできる畳工房との繋がりも感じられるようにした。寝転んだり座ったり、落ち着いて読書を楽しめる空間になる。

屋根構造 2

裏路地にかかる屋根は、両側の建物の梁の延長によって構成されており、梁を切断しないで良いように梁を細くし、交差させた。通常の梁が 105×210 なのに対し、裏路地の梁だけは、50×210 とし、1本の柱に対して2本の細い梁が接合している構造。柱と梁の接合部分には、SE金物を用い、ボルトによって繋ぐ。梁を細くしたことで、切断して接合する手間が省けるという利点だけでなく、裏路地の軒裏も細い材で構成されるため、圧迫感のない空間となった。

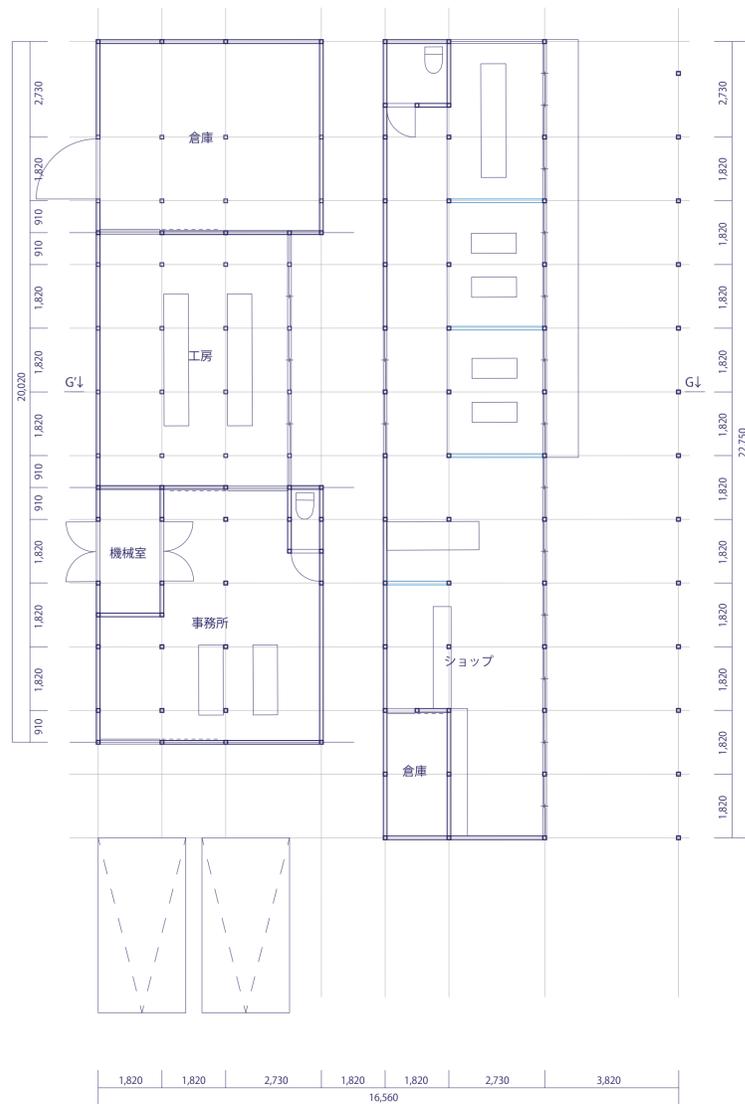


F-F' 断面図 1:100



図書室内観

7 畳工房 / 8 ショップ



平面図 1:100



建築概要

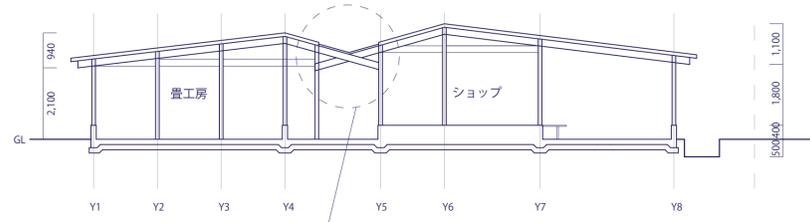
- | 畳工房 | ショップ |
|----------------------------|----------------------------|
| ・構造 木造 1階 | ・構造 木造 1階 |
| ・床面積 116.32 m ² | ・床面積 103.51 m ² |
| ・最高高さ 3,040 m | ・最高高さ 3,300 m |

い草のまち、早島

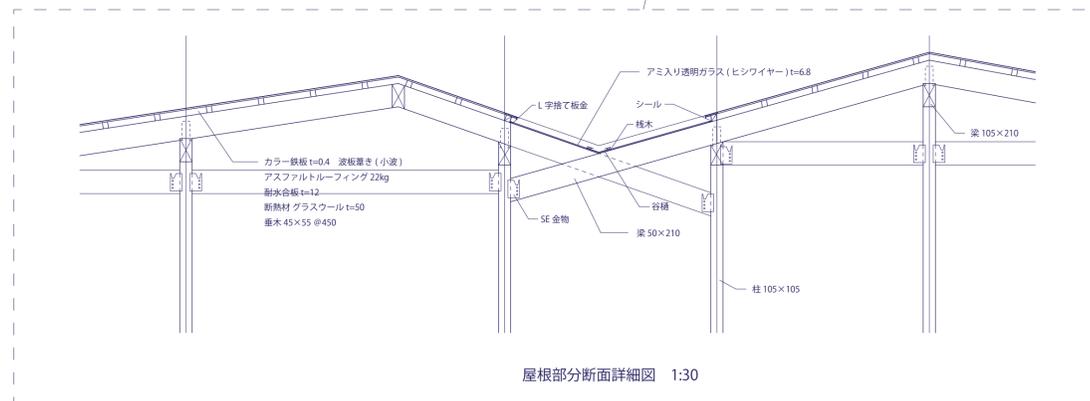
早島町は、かつてはい草、畳表の全国的な産地であった。現在は、い草の栽培面積はゼロになってしまったが、い草の文化や歴史は継承されている。い草を用いたものづくりの体験教室や、町内で行う花ござ祭りなど、い草は町民に親しまれている。

畳工場の継承

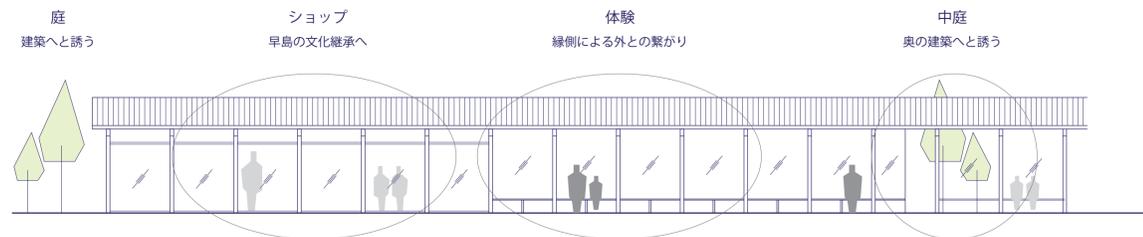
い草の町として発展してきた早島は、現在でも畳の生産を行っている。対象敷地にも、100年以上続く畳工場が残っており、教育ネットワークを形成する上で必要だと考えたため、以前より規模は小さくなったが、工房として建築群の要素に取り込んだ。ショップも併設することで、地域の人も気軽に訪れられるようにした。



G-G' 断面図 1:100



屋根部分断面詳細図 1:30



東側立面図 1:100



工房とショップ間の裏路地



ショップ脇の土間